

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		シニアクラブ活動助成事業	担当課	健康長寿課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	法定＋任意
	基本事業	生きがいつくりの機会と社会参加の促進	市民協働	共催
予算科目コード		01-030103-02 補助	根拠法令・条例等	老人福祉法，老人クラブ活動等事業実施要綱，老人クラブ等事業運営要綱，守谷市シニアクラブ助成事業補助金交付要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
昭和37年老人福祉法制定に伴い創設された事業である。市民が高齢期で過ごす時間に生きがいを持ち安心して楽しく充実した生活を送ることが求められている。シニアクラブは地域を基盤とする高齢者の自主的な組織であり、国の老人クラブ活動等事業実施要綱に基づき単位シニアクラブ、市シニアクラブ連合会及び県老連と連携を図るとともにシニアクラブ等に対する支援に努め、必要に応じて助言	市は、市シニアクラブ連合会及び単位シニアクラブへの補助金支給・各種スポーツ大会・文化交流会・役員会・会長会議・研修会・その他高齢者が生きがいや健康づくり事業などの企画等を支援する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市シニアクラブ連合会及び単位シニアクラブの活動をより一層活性化し、高齢者の生きがいや健康づくりを推進する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
①シニアクラブ会員数が増加しない。 ②新規シニアクラブが発足されない。	5月 元氣わくわくスポーツ大会【市主催】 9月 茨城県老人クラブ大会【県主催】 9月 文化交流会（健康マージャン大会）【連合会主催】 10月 茨城県ねりんスポーツ大会【県主催】 10月 シニアスポーツ大会【市主催】 1月 詐欺被害防止対策研修会【連合会主催】 2月 視察研修会【連合会主催】 3月 文化交流会（健康マージャン大会）【連合会主催】 随時 役員会，単位シニアクラブ会長会議 他課主催の各種研修会 茨城県老人クラブ連合会主催の各種会議 各単位シニアクラブにおける会員増強活動
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
①会員数を増やすために各種事業終了後，アンケートを実施し，ニーズに合った事業を展開する。 ②新クラブ発足に対する助言・指導及び啓発発動 その他として， ・市主催事業の企画・開催（元氣わくわくスポーツ大会，シニアスポーツ大会） ・連合会主催事業の企画・開催・援助（視察研修会，詐欺被害防止対策研修会） ・連合会のクラブから企画された事業に対する助言・援助（健康マージャン大会）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	今後の超高齢者社会へ向けて，社会参加や生きがいつくりを推進していくため重要な事業ではあるが，投資よりも組織の成熟と自立を目標とし進めていくため。

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
高齢消費者見守りサポーター養成講座では、過去に同講座を受講した方を中心として、市内の消費者被害を実例に犯罪手口及び防止のポイントを学習した。（３７名） 第５回健康麻雀大会を参加全クラブで組織する実行委員会の運営により、９月に開催。なお、３月については感染拡大防止のため中止とした。（１１２名） 首都圏郊外放水路及び関宿場博物館視察を実施（３９名） シニアスポーツ大会を実施（２８３名出席）	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、連合会事業及び単位クラブの活動に中止や制限が発生した。しかし、各単位クラブでは感染対策に留意し活動内容を工夫することで、随時活動再開となった。また、市の支援として、感染対策のための消耗品配付等を行った。 定期的に連合会役員会議を開催（４回、書面協議２回） ８月顕彰授賞式（１９名）

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
シニアクラブ会員数（人）	820.00	906.00	903.00	956.00	987.00	983.00	1,032.00
スポーツ大会参加者数（人）	614.00	589.00	674.00	593.00	600.00	0.00	200.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、スポーツ大会・健康麻雀大会等が中止となり、連合会としての会員相互の交流は自粛を余儀なくされた。一方で単位クラブの活動は同様の制限を受けつつも、屋外活動を増やすなど各クラブで工夫をこらし、すべてのクラブで活動を再開している。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	シニアクラブの会報誌の作成やまちづくり協議会へのPR等周知啓発を行い、会員数の増員及び高齢者の社会参加と生きがいづくりを推進する。					

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	2,419	2,445	1,800	2,918	2,918
	国・県支出金	520	478	277	715	715
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	1,407	0	0	0	0
	一般財源	492	1,967	1,523	2,203	2,203
正職員人工数（時間数）		873.00	1,070.00	343.00	0.00	0.00
正職員人件費		3,645	4,390	1,388	0	0
トータルコスト		6,064	6,835	3,188	2,918	2,918

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		敬老祝金支給事業	担当課	健幸長寿課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	昭和43年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意の事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進	市民協働	
予算科目コード		01-030103-06 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 高齢者に心から敬意を表し長寿をたたえるため、人生の節目にあたる年齢時に祝金を支給する。 (対象年齢・金額) 88・99歳：5,000円 100歳以上：10,000円
老人福祉法第5条の規定において、老人週間（9月15日～21日）において、敬老意識の高揚と高齢福祉に対する理解を促すことが推奨されている。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
高齢の節目を迎えた方々に、長寿の喜びを感じていただき、生きがいをもって生活ができる。。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
これまでに支給対象者の基準（77歳廃止）や支給金額を見直してきたが，高齢者数は増加が見込まれ，それに伴い財政負担が増加する。	高齢者数の推移や社会情勢等を注視し，随時見直すこととする。 （参考） ・ H27：550人／2,795千円（77歳を対象に含む） ・ H28：204人／1,120千円（以後，77歳を対象に含まず） ・ H29：213人／1,160千円 ・ H30：228人／1,255千円 ・ R1：232人／1,295千円
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
長寿を祝福することを目的とした事業であり，当面は現在の対象者及び1人当たりの支給金額を維持する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☐維持 ☐削減	

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
支給方法は、単に贈呈するだけではなく、安否確認や見守りといった効果も期待できる民生委員による手渡しが適当と判断した。今年度も88歳・99歳・100歳以上の方に祝金を支給した。（100歳以上の方は、市長からの贈呈） 88歳：180人 99歳：25人 100歳：11人 101歳以上：16人 合計：232人	感染症予防に配慮し、例年の民生委員からの手渡しではなく、振込による支給を行った。100歳の方の一部については、市長による表敬訪問の際に贈呈。 （支給実績） 88歳：201人／205人 99歳：21人／22人 100歳：20人／20人 101歳以上：16人／17人 合計：258人／264人（6人は死亡・辞退等）

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
支給人数（人）	549.00	204.00	213.00	228.00	232.00	238.00	290.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	高齢者に敬意を表して長寿をたたえるため、人生の節目に当たる年齢時の祝金支給であり、成果は維持している。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	平均寿命の伸びに伴い、支給対象者及び支給額の増加が見込まれるが、長寿を祝福する事業であるため継続していく。						

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	1,257	1,299	1,482	1,832	1,832
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,257	1,299	1,482	1,832	1,832
正職員人工数（時間数）		59.00	89.00	112.00	0.00	0.00
正職員人件費		246	365	453	0	0
トータルコスト		1,503	1,664	1,935	1,832	1,832

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		高年齢者就業機会確保事業	担当課	健幸長寿課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	平成16年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意的事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進	市民協働	補助事業
予算科目コード		01-030103-08 補助	根拠法令・条例等	高年齢者等の雇用の安定等に関する法律 守谷市高年齢者就業機会確保事業費等補助金交付要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
高年齢者等の雇用の安定等に関する法律において、「国や地方公共団体は、実情に応じて必要な援助、雇用の機会や就業の機会の確保等を図るために必要な施策を推進するように努めなければならない。」と定められている。	シルバー人材センターの事業運営に要する一部費用を補助金として交付する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
シルバー人材センターは、60歳以上の高齢者の労働能力や技能を活用し、地域社会に密着した短期的な就業の機会を提供している。シルバー人材センター事業の円滑な推進により、高年齢者の健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会への参加を図る。また、介護保険総合事業への参入を予定し、その体制づくりを進め更なる就業機会の確保に努める。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
シルバー人材センターの健全運営と会員の就業機会確保のために、センターの就業先拡大やサービス拡充が課題となっている。 会員の高齢化により顧客の注文を受けられない状況とならないために会員を安定して確保することが課題となっている。	随時 事務局との定期的な意見交換の場を設け、センターの事業状況把握と、運営への助言指導に努めていく。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
センターのPRに努め、事業利用の促進を図る。 会員獲得のための入会相談会の実施及び未就業会員に対する公平で適正な就業の確保を図る。 就業会員に対する業務中の作業手順をはじめとする安全ルールの徹底、法令順守及びコミュニケーションの向上を図る。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	現在のセンター運営状況から、目的達成のためには維持が妥当である。

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度を取組（評価、課題への対応）
対応できる事業は限られているが、利用される方の要望に対し、できる限りの対応に努めるよう指導した。	高齢者の就労機会の確保のためシルバー人材センターへの支援を継続。 就業会員に対する業務中の作業手順をはじめとする安全ルールの徹底、法令順守及びコミュニケーションの向上を図った。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
就業延人数（人）	42,924.00	41,057.00	39,282.00	37,902.00	36,370.00	42,528.00	43,000.00
就業実人数（人）	355.00	325.00	327.00	306.00	285.00	343.00	360.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	一般企業等における定年の引き上げ及び継続雇用制度の導入等から、高齢者の雇用が促進されている状況の中、新規の入会者数が横ばいから減少傾向である。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	シルバー人材センターの活動を支援することにより、健全な運営を継続し、引き続き高齢者の生きがいの充実と社会参加を図る。						

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	3,100	3,100	3,100	3,100	3,100
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	3,100	0	0	0	0
	一般財源	0	3,100	3,100	3,100	3,100
正職員人工数（時間数）		13.00	27.00	64.00	0.00	0.00
正職員人件費		54	111	259	0	0
トータルコスト		3,154	3,211	3,359	3,100	3,100

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		サロン活動支援事業	担当課	健幸長寿課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	平成12年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意の事務
	基本事業	生きがいつくりの機会と社会参加の促進	市民協働	事業協力
予算科目コード		01-030103-13 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 地区公民館等を会場として、健康づくりのための体操・趣味活動・茶話会等を行い、地域社会での高齢者同士のつながりを深める。なお、現地での運営は、参加者を兼ねたボランティアにより実施されている。 市では、サロン活動に必要な消耗品や備品の提供の他、サロン利用者の見聞を深めることを目的とした視察研修の実施等の支援を行っている。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
①令和2年度に掛けて、活動場所が使用不能になる団体あり。 （御所ヶ丘小学校1団体、郷州小学校1団体） ②小規模サロンにおける参加者の固定化、減少 ③運営ボランティアの高齢化、後継者の不在 ④視察研修の費用対効果	（令和元年度） 12～3月 要綱策定 3月 運営ボランティア会議 ・来年度運営方針（要綱を前提とした方針の提示） （令和2年度） 時期未定 ボランティア向け研修 随時 ・予定表や掲示物等の作成支援 ・消耗品やお茶等の購入及び配布 ・まちづくり協議会等との連携
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
①工事担当課と調整し閉鎖期間を限定。また、閉鎖前後の活動に支障のないように配慮する。 ②③開設から長期間経過しているサロンも多く、様々な問題が発生している。まちづくり協議会等との連携も視野に入れ、要綱を策定し、今後の事業運営方針を定める。 ④レクリエーションの要素の強いものではなく、上記の諸課題の解決に繋がる研修として見直しを行う。（運営ボランティア向けに、先進事例やサロン参加者に周知すべき情報を提供する場とする。）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
高齢者のみ世帯，ひとり暮らしの高齢者が増加していく中で，歩いて参加できるサロンが増え，高齢者のコミュニケーションの場となることで，高齢者が孤立しない状態になることから，地域づくりとしてのサロン活動は重要なものである。 市のホームページやチラシ等でサロンの周知を図った。 サロン活動の円滑な運営のため，運営ボランティアとの情報共有会議を開催した。結果新規参加者の発掘と運営後継者の育成が課題としてあがった。	新型コロナ感染が拡大する中で活動の休止・縮小，県のステージの状況からサロン再開などを通年指示。緊急事態宣言解除後（6月）に運営ボランティア会議を開催し，感染対策に留意しながらの活動指針を提示。消毒液などの消耗品の提供による側面支援も実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
参加人数（人）	781.00	1,113.00	1,228.00	1,255.00	1,300.00	830.00	1,300.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	新型コロナ感染症の拡大及び茨城県緊急事態宣言の発出等に伴う活動休止期間もあり，その後に再開したサロンは4割に留まっている。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	活動休止しているサロンの活動再開に向けた調整を行うとともに，新たなツールを活用しながらコミュニケーションの場を提供し，コロナ自粛前の活動状況へ回復を目指す。					

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	1,179	679	410	851	851
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	653	0	0	0	0
	一般財源	526	679	410	851	851
正職員人工数（時間数）		313.00	226.00	488.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,307	927	1,975	0	0
トータルコスト		2,486	1,606	2,385	851	851

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		地区敬老行事助成事業	担当課	健幸長寿課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	平成29年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意の事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進	市民協働	補助事業
予算科目コード		01-030103-20 単独	根拠法令・条例等	守谷市地区敬老行事助成金交付要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 各地区の実情に応じて開催される，高齢者（75歳以上）を敬いその長寿を祝う行事，かつ，高齢者と地域住民との交流を深める行事を実施する団体に対して助成金を交付する。 なお，まちづくり協議会が設立された地区については，まちづくり協議会活動支援交付金により対応する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
多年に渡り地域社会に貢献してきた高齢者を敬い，高齢者と地域とのつながりづくりや世代間交流による絆づくりに寄与するもの。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味，スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
令和元年度は，まちづくり協議会が立ち上がっていない守谷地区5ブロック（A～E）が本事業の対象実施団体となっている。うち4団体から助成金交付申請があり，行事を実施したことにより，地域のつながりづくりや世代間交流を促進できた。一方，Dブロックは申請がなく地区敬老行事は実施されなかった。実施のない地域での開催，行事に参加できない敬老対象者への対応が課題である。	8月～ 各地区から助成金交付申請を受付，交付決定 10～11月 各地区において敬老行事実施 11～12月 各地区から実績報告，精算 ～3月 まちづくり協議会の設立状況に応じて，翌年度の対象地域を決定。 随時 ・各地区からの実施における相談への対応 ・未実施地域（Dブロック）への実施に向けた支援
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
市民協働推進課等と連携し，未実施地域への実施に向けた支援について検討する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の実績（評価、課題への対応）
まちづくり協議会が設立されていない守谷地区（A, B, C, Eブロック）において敬老行事を開催した。 参加人数849人（75歳以上334人）	まちづくり協議会が設立されていない守谷地区Dブロックで開催する地区敬老行事分として予算確保していたが、感染症拡大の影響により実施されなかった。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
敬老行事開催団体数	0.00	0.00	18.00	12.00	4.00	0.00	1.00
7 5 歳以上の参加者数	0.00	0.00	836.00	978.00	849.00	0.00	170.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	新型コロナウイルス感染症の影響により敬老行事は実施されなかった。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☒ 縮小 ☐ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	まちづくり協議会が設立されていない守谷地区Dブロックのみが本事業の対象であり、将来的には、まちづくり協議会設立をもって本事業は終了となる見込み。					

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	2,211	811	0	170	170
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	811	0	0	0
	一般財源	2,211	0	0	170	170
正職員人工数（時間数）		230.00	34.00	20.00	0.00	0.00
正職員人件費		960	140	81	0	0
トータルコスト		3,171	951	81	170	170